

よくわかる決算書

令和5年度 下水道事業会計
岡崎市上下水道局

下水道事業のいまと未来！

収益的収支と資本的収支とは??

~~損益計算書に載らない支出~~



©R.S.H/RUNE

下水道事業 100 周年記念デザイン

「岡崎城とルネガール」

用語解説付き！

令和5年度の決算を解説します！！

目次

1 決算書とは？	1
まずは、財務三表それぞれの役割について説明するよ！	2
2 経営成績はどうだったの？	3
下水道事業の状況を見てみよう！	3
損益計算書の「収入」を見てみよう！	4
次に損益計算書の「支出」を見てみよう！	5
「減価償却費」と「長期前受金戻入」を知ろう！	6
損益計算書の「収入」から「支出」を引いてみよう！	7
「資本的支出」(＝損益計算書に載らない「支出」)を見てみよう！	8
「資本的収入」(＝損益計算書に載らない「収入」)を見てみよう！	9
「資本的収入」から「資本的支出」を引いてみよう！	10
まとめ	11
3 「補てん財源」の推移を見てみよう！	12
4 水道事業が置かれている状況を見てみよう！	13
5 財務三表の解説	15
【図解】損益計算書	15
【図解】貸借対照表	16
【図解】キャッシュ・フロー計算書	17
よくわかる決算書 用語解説	18

1 ^{けっさんしょ} 決算書とは？

岡崎市下水道事業では平成 24 年度から公営企業会計^{こうえいきぎょうかいけい}を導入しています。

公営企業会計では民間企業のように複式簿記^{ふくしきぼき}を使って記帳を行います。

その記帳の内容を取りまとめたものが「決算書」になります。

決算書は、4 月 1 日から翌年の 3 月 31 日までの 1 年間の経営成績と財政状況について、損益計算書^{そんえきけいさんしょ}、貸借対照表^{たいしゃくたいしょうひょう}、キャッシュ・フロー計算書^{ざいむさんびょう}（財務三表と呼ばれます。）などの決算書類で報告しています。

ただ、この書類は初めて見る人には少し難しい内容です。

そのため、使用者のみなさんに決算書に書かれていることを分かりやすくお伝えし、岡崎市の下水道事業がどのような状況なのかを知っていただけるよう決算書の概要版を作成しました。

決算書を見てみたけど、難しくてよくわからなかったよ～。



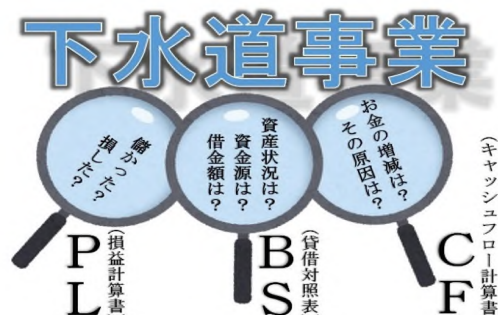
岡崎市上下水道局マスコットキャラクター
スイートちゃん



岡崎市上下水道局マスコットキャラクター
スイートくん

ぼくが決算書をわかりやすく解説するよ！

まずは、財務三表それぞれの役割について説明するよ！



損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書を合わせて「財務三表」と呼ぶんだ。

それぞれ役割があり、下水道事業の経営状況が分かるよ！

「儲かったか」が分かるってこと？



「儲かったか」も分かるね！

その他にも「現金を増やすことができたか」や「下水道管などの資産がどれくらいあるか」も分かるんだ。

「儲かった」と「現金が増えた」は違うの？



実はその2つは違うんだ！
この「よくわかる決算書」でその違いを説明していくよ。

まずは、財務三表それぞれの役割を覚えよう！

損益計算書は「儲かったか」
貸借対照表は「資産、負債、資本の状況」
キャッシュ・フロー計算書は「現金が増えたか」

をあらわす書類なんだ。

次のページから損益計算書を中心に
下水道事業の経営状況について解説していくね！



2 経営成績はどうだったの？

下水道事業の状況を見てみよう！

1 下水道の接続件数

項目	令和5年度	令和4年度	前年度からの増減
接続戸数（戸）	148,086	145,746	2,340
接続人口（人）	330,158	327,843	2,315



「接続戸数」は、下水道を使用している家の数のことで、前年度から2,340戸増えているよ！

「接続人口」は、下水道を利用している人の数のことで、前年度から2,315人増えているよ。

岡崎市の人口は減少しているけど、下水道の整備は続いているから、接続人口は増えているんだよ。

2 下水道の処理水量

項目	令和5年度	令和4年度	前年度からの増減
総汚水処理水量（m ³ ）	36,009,432	36,116,924	-107,492



「総汚水処理水量」は、処理場できれいに処理された汚水のことだよ！

節水機器の機能向上などで、前年度と比べて107,492m³減っているよ。

これはゾウのふじ子4万頭分くらいの重さなんだ。

3 令和5年度決算の特徴

（億円）

項目	令和5年度	令和4年度	前年度からの増減
純利益	1.6	3.5	-1.9
りゅういきげすいどう 流域下水道管理運営費負担金	14.6	12.1	2.5
げんかしようきやくひ 減価償却費	51.3	47.2	4.1



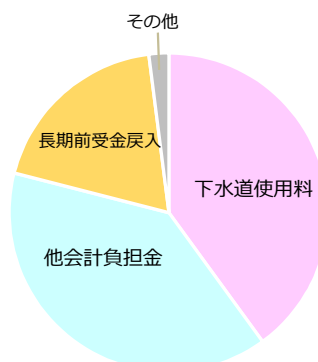
下水道事業の1年間の儲けを「純利益」と言うんだ！前年度と比べて1億9千万円減っているよ。

岡崎市の汚水を処理する流域下水道の運営費と減価償却費が増えていることが原因の一つだよ。

損益計算書の「収入」を見てみよう！

収益的収入(損益計算書) (税抜)

内容	金額 (円)
けすいどうしょうりょうしゅうにゅう 下水道使用料収入	3,778,842,372
たかいけいふたんきん 他会計負担金	3,631,733,871
ちようきまえうけきんれいにゅう 長期前受金戻入	1,803,456,658
その他	208,706,195
合 計	9,422,739,096



収入の割合



下水道事業は、みんなにお支払いいただく「下水道使用料」で経営しているよ！

そうだったんだね！

収入には、その他にも「他会計負担金」や「長期前受金戻入」とあるね。これは何？



じゃあ「他会計負担金」から説明するね。

まずね、下水道管にはみんなの家から流れてくる汚水と雨が降って地面にたまった雨水が流れているんだ。

汚水を流すためのお金は下水道を使用した人が支払って、雨水を流すためのお金は岡崎市の税金から支払われているよ。

雨水を流すための施設は下水道事業(下水道事業は岡崎市から独立している)が管理しているから、岡崎市から下水道事業へお金が支払われるんだ。これが「他会計負担金」だよ。

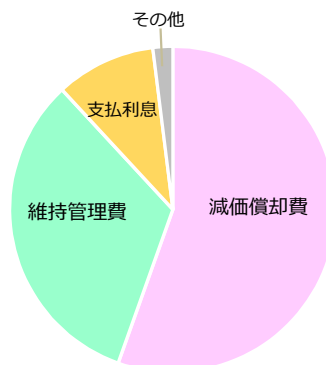
「長期前受金戻入」は少し難しいから、あとで説明するね！



次に損益計算書の「支出」を見てみよう！

収益的支出(損益計算書) (税抜)

内容	金額(円)
げんかしょうきゃくひ 減価償却費	5,160,786,524
いじかんりひ 維持管理費	3,052,545,402
しはらいりそく 支払利息	901,838,725
その他	146,038,678
合計	9,261,209,329



支出の割合

「維持管理費」ってどんな費用なの？



「維持管理費」は、汚水をきれいにする処理場にかかる費用、各家庭から処理場へ汚水を送るポンプ場の電気代・薬品費、下水道の仕事をしている職員の給料などが含まれているよ。

それじゃあ「支払利息」って何の利息のこと？



施設を作るときに借りたお金に対する利息のことだよ！

もう1つの「減価償却費」って何？



「減価償却費」は、前のページで出てきた「長期前受金戻入」とセットで考えると分かりやすいから、次のページで説明するね。

「減価償却費」と「長期前受金戻入」を知ろう！

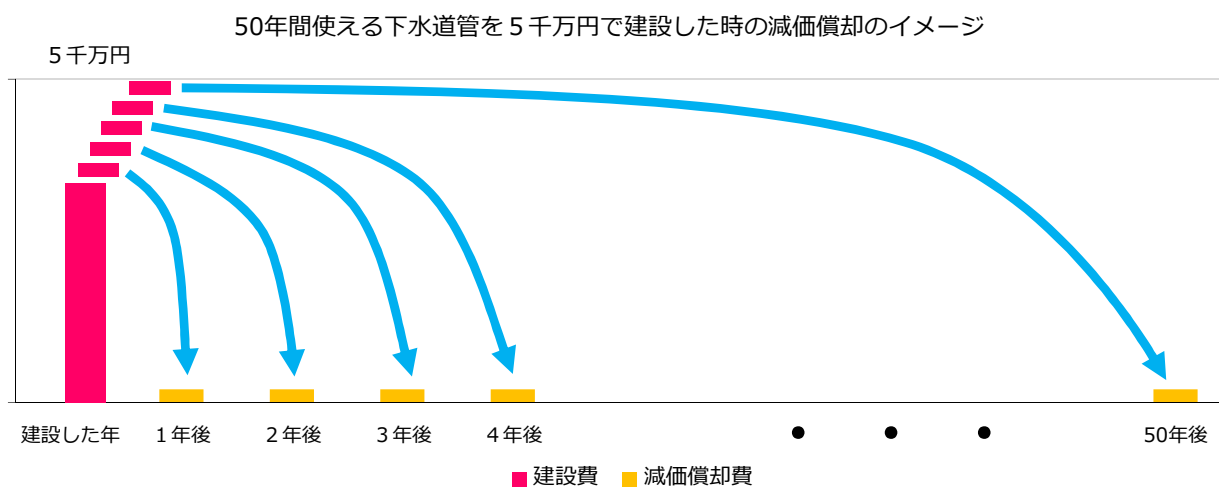


損益計算書は1年間にかかった費用を載せる決まりがあるよ。

下水道管などは長い間使えるよね。だから、作った年にかかったお金を費用とはせずに、その施設が使える年数で少しずつ費用にしていくんだ。これを「減価償却費」というんだよ。

作った年にお金の支払いは済んでいるんだけど、作ったお金の全部が費用になるのは、ずーっと先になるんだ。

減価償却費のイメージを見てみよう！



建設した年に5千万円を支払っているんだけど、損益計算書では50年かけて少しずつ費用として載せているね。

その年に現金で支払ったものが全て損益計算書に載っているわけではないんだ。

じゃあ「長期前受金戻入」ってどんなものなの？



「長期前受金戻入」は、この収益バージョンだね。

下水道事業では国からの補助金などを建設費用に充てているんだけど、その補助金などは施設が使える年数に合わせて収益にしていくんだ！



この2つは、この後の話でも出てくるから覚えておいてね。

次に損益計算書の「収入」から「支出」を引いて、分かることを説明していくよ！

損益計算書の「収入」から「支出」を引いてみよう！

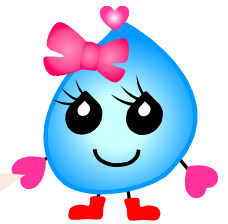
収入－支出＝純利益（純損失）

161,529,767円



約1億6千万円のプラスだね。収入から支出を引いたものがプラスだと「純利益」、マイナスだと「純損失」と呼ぶよ。黒字、赤字って言うと分かりやすいかな？

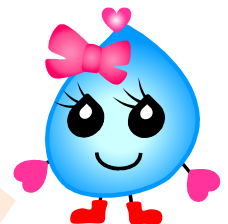
損益計算書から分かることは、下水道事業が黒字だったか、赤字だったかってことなんだ。



約1億6千万円も黒字なら下水道事業は安心だね！



そのとおり！…と言いたいところなんだけど、下水道事業には損益計算書に載っていない「支出」があるんだ。



さっき、損益計算書の支出と収入を見たけどあれで全部じゃないんだね！

それってもしかして、「減価償却費」や「長期前受金戻入」と関係しているの？



するどいね！

下水道管の建設費のように、実際に現金の支出や収入をしても、損益計算書に載らない項目があるんだ。

そういった支出や収入もしっかりと把握する必要があるよ！

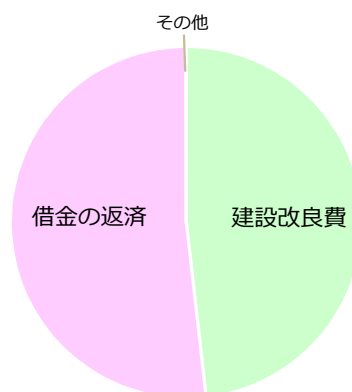
こういった今年に支出や収入をしているんだけど、性質上、損益計算書に載らないものをそれぞれ、「資本的支出」と「資本的収入」というんだ。



「資本的支出」と「資本的収入」について詳しく知りたいな～！

「資本的支出」(＝損益計算書に載らない「支出」)を見てみよう！

資本的支出 (税抜)	
内容	金額 (円)
建設改良費	3,977,106,592
借金の返済	4,271,356,273
その他	2,180,000
合計	8,250,642,865



資本的支出の割合



「建設改良費」は施設の建設費のことだよ。

あとは、施設を建設するときに借りた借金を返すお金も損益計算書には載っていないよ。

下水道事業は、建設改良費の多くを借金でまかなっていて、そのために借りた借金を返すお金も多く、水道事業に比べて、資本的支出に占める「借金の返済」の割合が大きいんだよ！

損益計算書に載っていない支出が約82億円もあるんだね....。

まさか損益計算書に載らない「支出」がこんなに大きいとは思ってなかったよ！



下水道事業は施設の建設や更新が多いから、「資本的支出」がとて大きいんだ！

だから損益計算書に載らない支出もしっかり見ないといけないよ。



施設の建設費などが損益計算書の支出として載っていないように、損益計算書に載っていない収入もあるんだよ。

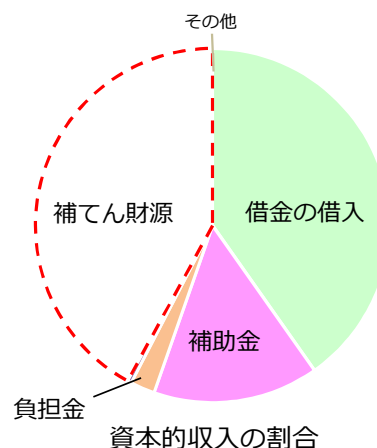
それを「資本的収入」って呼んでいるんだ。

じゃあ次のページで「資本的収入」の中身を見てみよう！

「^{しほんてきしゅうにゅう}資本的収入」(＝損益計算書に載らない「収入」)を見てみよう！

資本的収入 (税抜)	
内 容	金額 (円)
借金の借入	3,319,500,000
補助金 (※)	1,248,662,567
負担金 (※)	184,526,362
その他	30,276,626
合 計	4,782,965,555

※消費税の計算上生じる雑支出や、来年度の繰り越し工事に係る収入を引いておりますので決算書の数値と一致しません。



※補てん財源は次からのページで説明します。



借金も損益計算書に載らないよ。

前のページでも説明したように、下水道事業は建設改良費の多くを借金でまかなっているから、資本的収入に占める「借金の借入」の割合が大きいんだよ。

次に金額の大きい「補助金」は、施設を建設するときに国からもらっているお金のことだよ！

国からの「補助金」ってことは、税金が投入されているってこと？



するどいね。「補助金」は税金のことだよ！

地震や浸水のような自然災害への対策はたくさんお金が必要だから税金をもらって、その費用をまかなっているよ。

水道事業は、その費用の一部として、岡崎市から「出資金」をもらっているけど、下水道事業は、その他にも公衆衛生を維持したり雨水を処理するなど、個人の負担に関わらない施設を多く持っているから、施設を建設するのに国から「補助金」を多くもらっているんだよ。



「負担金」についても教えて！



「負担金」には、下水道を新しく整備した地区に土地を持っている人からもらう「受益者負担金」などが含まれているよ！

じゃあ最後に損益計算書で「収入」から「支出」を引いて、純利益(純損失)を計算したみたいに「資本的収入」から「資本的支出」を引いてみよう！



「資本的収入」から「資本的支出」を引いてみよう！

収入－支出（施設の建設）

-3,467,677,310円

約34億7千万円の赤字！？
いったいどうやって施設の建設をしているの...？



この赤字は損益計算書の「収入」で補わなくちゃいけないんだ。



損益計算書の「収入」で補えるの？

たしか損益計算書の収入は維持管理費や減価償却費などの
「支出」を引いて、1億6千万円しか余っていなかったよね？



そのとおり！よく覚えていたね。
ここで関係するのが「減価償却費」と「長期前受金戻入」だよ。

この2つは最初の年にお金のやり取りをしているから、
翌年以降は実際のお金のやり取りが発生していない費用と収益
だったよね。

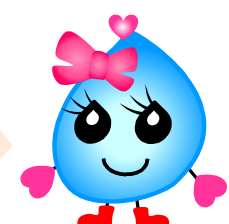
損益計算書で純利益（純損失）を算出するときは収入から支出
である「減価償却費」を引いていたけど「減価償却費」については
実際のお金の支払いは行われていないから、その分のお金は
手元に残っていることになるよ。

反対に損益計算書における「長期前受金戻入」は、最初の年に
もらった補助金を施設の使える年数にあわせて収益として計上
しているわけだから、1年のお金の動きを考えると、その分
のお金は引かないといけないんだ。



「減価償却費」は、最初の年に支払った「建設費」の
うちの今年度分を計上しているだけだから、実際には
お金の支払いはないってことね。

だからこのお金は、「資本的収入－資本的支出」の赤字
を埋めるのに使えるんだね。



まとめ



では、実際に補えるのか計算してみよう！

資本的収入－資本的支出の赤字は **約34億7千万円**

損益計算書上の純利益(黒字額)は **約1億6千万円**

損益計算書で支出計上したが、
手元に残っているお金(減価償却費分)は **約51億6千万円**

損益計算書で収入計上したが、
使えないお金(長期前受金戻入分)は **約18億円**

全てを足し引きすると下の計算式のようになるよ。

資本的収入－資本的支出		-3,467,677,310	円
損益計算書上の純利益(黒字額)	+	161,529,767	円
減価償却費	+	5,160,786,524	円
長期前受金戻入分	-	1,803,456,658	円
		3,658,095,639	円

計算結果がプラスってことは、「資本的収入」－「資本的支出」の赤字を補うことができたんだね。



そうだね。今年は約36億6千万円が来年以降に使うためのお金として手元に残ったんだ。

このお金は「補てん財源」と呼ばれているよ。

「補てん財源」は、今後の建設費や赤字が出たときに使えるお金になるんだよ。

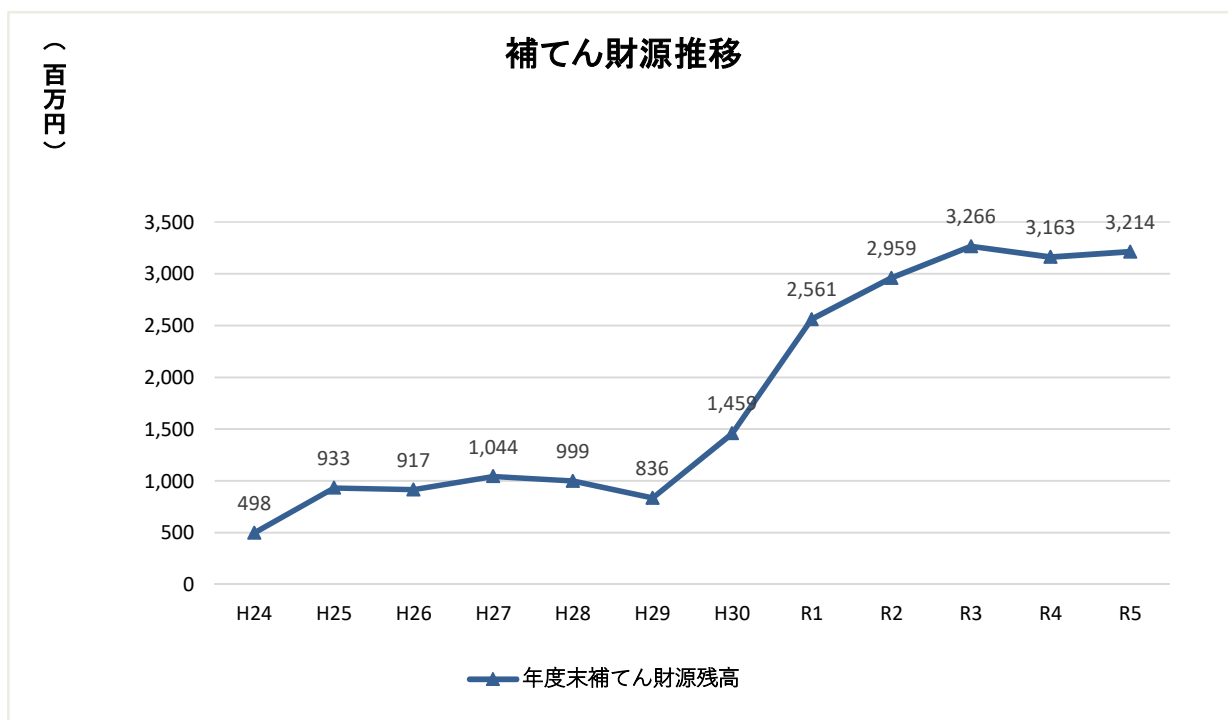


損益計算書で黒字だから安心してことではなくて、「資本的収入」と「資本的支出」の結果も見ないといけないんだね。

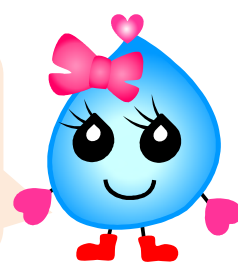
ところで岡崎市の補てん財源って今どれくらいあるの？



3 補てん財源の推移を見てみよう！



今は32億円ぐらい「補てん財源」があるんだね！
水道事業の117億円と比べると少ないね．．．。



下水道事業は平成24年から企業会計を導入しているから、
補てん財源をたぐわえ始めて、10年しか経っていないんだ。
下水道事業が置かれている状況をもう少し見てみよう！



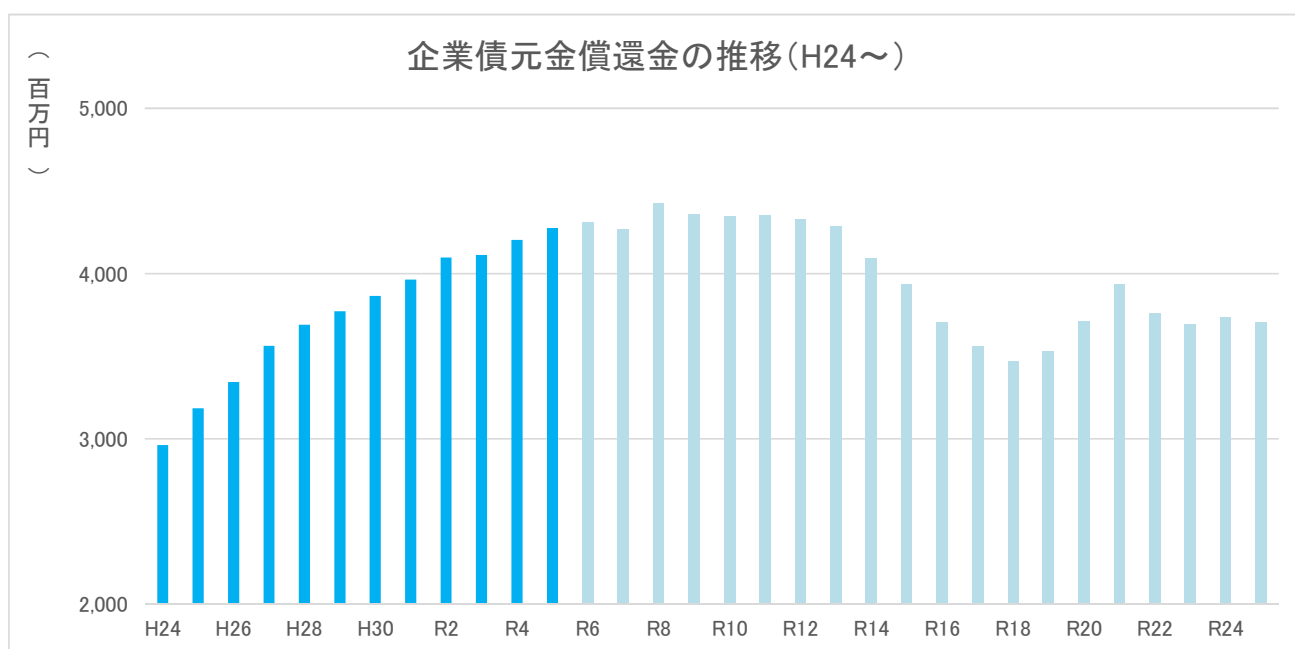
4 下水道事業が置かれている状況を見てみよう！



下の表は「企業債の償還金」の推移だよ。

「企業債の償還金」とは下水道を整備する時に借りた借金を返済するお金のことだよ。

今は返済のピークに入ったけど、これからしばらく続くからお金が減ってしまうんだ。



しばらくはお金が減ってしまうんだね。

それでも古くなった下水道を入れ替えたりするお金はこれからも必要ってことだね？



水道と下水道の老朽化率（令和5年度）

	水道	下水道
老朽化率※	22.79%	6.09%

※法定耐用年数を経過した管渠の割合です。



そう、下水道には計画的な点検や更新が必要なんだ。
でもね、下水道は水道と比べれば更新が多くなるのは
まだ先なんだ。

だけど最近のエネルギーの高騰は気になるね…。

今後も安定した経営を続けていくために、
審議会で適正な下水道使用料について検討してもらうよ！

わたしたちが、ずっと下水道を使えるように
しっかりとした計画をお願いしますね！



5 財務三表の解説①

【図解】損益計算書(決算書P.72～73)

損益計算書は、ある一定期間における企業の経営成績を明らかにするため、その期間中に得たすべての収益、これに対応するすべての費用、最終的な損益を記載する報告書です。

★損益計算書から分かること

損益計算書からは、どのような経営活動によって、どれだけの経営成績を上げたかを知り、それに基づいて過去の経営を分析し、また、将来の方針を立てることができます。

令和5年度岡崎市下水道事業損益計算書

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

(単位 円)

1 営業収益			
(1) 下水道使用料	3,778,842,372		
(2) 他会計負担金	2,187,771,396		
(3) その他営業収益	200	5,966,613,968 (ア)	
2 営業費用			
(1) 管渠費	640,701,979		
(2) ポンプ場費	410,786,962		
(3) 水質管理費	46,519,905		
(4) 業務費	280,018,551		
(5) 総係費	211,498,639		
(6) 流域下水道管理運営費負担金	1,463,019,366		
(7) 減価償却費	5,127,633,756		
(8) 資産減耗費	33,152,768		
(9) 農業集落排水処理施設維持管理費	34,934,148	8,248,266,074 (イ)	
営業損失		2,281,652,106 (ウ)=(ア)-(イ)	
3 営業外収益			
(1) 受取利息及び配当	20,440		
(2) 他会計負担金	1,443,962,475		
(3) 補助金	15,518,782		
(4) 長期前受金戻入	1,803,456,658		
(5) 引当金戻入益	1,875,845		
(6) 雑収益	13,977,396	3,278,811,596 (エ)	
4 営業外費用			
(1) 支払利息及び企業債取扱諸費	901,838,725		
(2) 雑支出	67,180,360	969,019,085 (オ)	
経常利益		2,309,792,511 (カ)=(エ)-(オ)	
5 特別利益			
(1) 固定資産売却益	8,106,384		
(2) 過年度損益修正益	169,207,148	177,313,532 (ク)	
6 特別損失			
(1) 過年度損益修正損	7,006,410		
(2) その他特別損失	36,917,760	43,924,170 (ケ)	
当年度純利益		133,389,362 (コ)=(ク)-(ケ)	
前年度繰越利益剰余金		161,529,767 (サ)=(キ)+(コ)	
その他未処分利益剰余金変動額		0	
当年度未処分利益剰余金		161,529,767	

★注目ポイント

①営業損失

本業による損益が分かる！

下水道事業の本業は、汚水と雨水を排水することです。そのための費用や、みなさんからいただく下水道使用料や、雨水を排水するための費用に対する一般会計からの繰入金等の、主たる営業活動の結果を示しています。

②経常利益

経営活動から生じた損益が分かる！

本業に関する損益に加えて、一般会計からの繰入金による収入のうち営業外収益としたものや、借入金利息の支払い等の資金調達等に関する損益の結果を示しています。

③当年度純利益

最終的な損益が分かる！

1年間のすべての損益の結果を示しています。

次の式で損益を把握するよ！

損益 = 収益 - 費用

プラス → 利益

マイナス → 損失



5 財務三表の解説②

令和5年度岡崎市下水道事業貸借対照表

(令和6年3月31日まで)

【図解】貸借対照表（決算書P77～79）

貸借対照表は、年度末時点に企業が所有するすべての資産、負債及び資本を表示する報告書です。

★貸借対照表から分かること

表の左側【資産の部】からは、企業が事業を行うために所有している資産の残高を知ることができます。
表の右側【負債の部】及び【資本の部】からは、資産を取得するためにどのように資金を集めたかを知ることができます。

資産は、性質によって「固定資産」と「流動資産」に分かれています。
区分の仕方は、1年のうちに現金化できるものを「流動資産」、できないものを「固定資産」としています。

この区分のルールを「ワニイヤールール」と呼びます。

★注目ポイント

① 流動比率(%)

$$\text{流動比率}(\%) = \frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100 = 88.8\%$$

すぐに支払わなければならないお金(流動負債)をすぐに支払えるか(現金等の流動資産がどれくらいあるか)を表します。
200%以上が理想的で、高いほど経営が安定していると言えます。
(参考: R4決算類似団体平均値=113.9%)

② 有形固定資産減価償却率(%)

$$\begin{aligned} \text{有形固定資産減価償却率}(\%) &= \frac{\text{有形固定資産減価償却累計額}}{\text{有形固定資産のうち償却対象資産}} \times 100 \\ &= 25.58\% \end{aligned}$$

有形固定資産の減価償却がどの程度進んでいるか(その資産をどれくらいの期間使っているか)を表します。
指標が高いほど資産の老朽化度合いが高いと言えます。
(参考: R4決算類似団体平均値=41.3%)

【資産の部】		金額(円)	【負債の部】		金額(円)
固 定 資 産		153,806,739,499	固 定 負 債		59,615,676,743
有 形 固 定 資 産		147,968,554,264	企 業 債 金		59,516,857,808
土 地		2,876,872,356	引 当 金		98,818,935
建 築 物		7,141,494,534	流 動 負 債		7,847,807,205
構 築 物		172,222,645,055	企 業 債		4,193,144,683
機 械 及 び 装 置		11,671,707,432	リ ー ス 債 務		61,237
車 両 運 搬 具		5,140,608	未 払 金		3,569,558,115
工 具 器 具 及 び 備 品		13,624,538	引 当 金		26,633,000
リ ー ス 資 産		1,046,900	そ の 他 流 動 負 債		58,410,170
減 価 償 却 累 計 額	△	48,868,168,245	繰 延 収 益		55,098,802,087
建 設 仮 勘 定		2,904,191,086	長 期 前 受 金		70,772,046,108
無 形 固 定 資 産		5,834,229,735	収 益 化 累 計 額	△	15,673,244,021
施 設 利 用 権		5,834,229,735	負 債 合 計		122,562,286,035
投 資 そ の 他 の 資 産		3,955,500			
長 期 貸 付 金		1,915,500			
そ の 他 の 投 資		2,040,000			
流 動 資 産		6,968,778,614	【資本の部】		金額(円)
現 金 預 金		4,607,903,247	資 本 金		37,948,810,516
未 収 金		1,763,056,363	剰 余 金		264,421,562
貸 倒 引 当 金	△	2,865,996	資 本 剰 余 金		102,891,795
短 期 貸 付 金		1,513,000	利 益 剰 余 金		161,529,767
前 払 金		599,172,000	資 本 合 計		38,213,232,078
資 産 合 計		160,775,518,113	負 債 資 本 合 計		160,775,518,113

『お金の使い道』
集めたお金が、「どのような状態」で「どれだけ」あるかが分かります。

『お金の集め方』
企業が資産を獲得するためのお金を、「どうやって」集めたかが分かります。

負債は、企業債(借金)など、他者に返さないといけないお金だよ。



くりのべ繰延収益は、下水道管の建設などにもらった補助金など、返す必要のないお金だよ。



資本は、資本金や事業で獲得してきた利益などのお金だよ。

5 財務三表の解説③

令和5年度岡崎市下水道事業キャッシュ・フロー計算書

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

【図解】キャッシュ・フロー計算書(決算書P100～101)

キャッシュ・フロー計算書は、対象年度中の現金の増減とその理由を表す報告書です。

★キャッシュ・フロー計算書から分かること
損益計算書、貸借対照表からは読み取りにくい、「1年間の現金の流れ」をその理由と合わせて知ることができます。

★注目ポイント

①現金を増やすことはできたか？

まずは現金が増えているか、減っているかを確認します。
その後で各キャッシュ・フローを見ると、なぜそうなったのか？が分かります。

②「業務活動によるキャッシュ・フロー」はプラスか？

下水道事業を続けるためには、本来の営業活動で得たお金(下水道使用料)で、下水道管等の維持管理・更新をしていく必要があります。
そのためには、必ずプラスにならなければなりません。

③「投資活動によるキャッシュ・フロー」はどれくらいマイナスか？

現在、多くの下水道施設が更新期を迎えており、多額の更新費用が必要です。施設の更新をすれば、必ずマイナスとなりますが、その規模が重要です。

④「財務活動によるキャッシュ・フロー」はプラスかマイナスか？

下水道事業では、下水道使用料に加えて、お金を借りて施設の更新を行っています。
借入と返済による資金の増減を表し、借りた金額よりも返す金額が多ければマイナスに、借りた金額が返す金額よりも多ければプラスになります。

キャッシュ・フロー計算書の読み方の例

	業務活動	投資活動	財務活動	概要
パターン1	プラス	マイナス(△)	マイナス(△)	本業の業績は概ね良好であり、有利子負債残高を減少させつつ建設改良に係る投資も実施しているため、比較的良好な経営状態にあると考えられる。
パターン2	プラス	マイナス(△)	プラス	本業の業績は概ね良好であるが、建設改良に係る投資財源を有利子負債に依存し、かつその残高が増加しているため、今後の返済負担増加が想定される。
パターン3	マイナス(△)	マイナス(△)	プラス	本業の業績が厳しく、建設改良に係る投資財源に加え、日常の運転資金も有利子負債に依存している可能性があるなど、資金繰りが非常にタイトになっていると想定される。

		(単位 円)
1 業務活動によるキャッシュ・フロー		
当年度純利益		161,529,767
減価償却費		5,127,633,756
固定資産除却費		32,662,768
退職給付引当金の増減額(△は減少)		9,293,137
賞与等引当金の増減額(△は減少)		843,000
貸倒引当金の増減額(△は減少)		235,983
長期前受金戻入額	△	1,803,456,658
受取利息及び受取配当金	△	20,440
支払利息		901,838,725
有形固定資産売却損益(△は益)	△	8,106,384
未収金の増減額(△は増加)		51,588,745
未払金の増減額(△は減少)		53,507,864
前払金の増減額(△は増加)	△	532,556,000
その他流動負債の増減額(△は減少)	△	8,051,813
小計		3,986,942,450
利息及び配当金の受取額		20,440
利息の支払額	△	749,941,183
業務活動によるキャッシュ・フロー		3,237,021,707
2 投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△	4,398,627,016
有形固定資産の売却による収入		8,106,384
無形固定資産の取得による支出	△	178,818,139
長期貸付金の貸付による収入	△	2,180,000
短期貸付金の償還による収入		1,432,750
工事負担金による収入		4,404,188
他会計負担金による収入		55,493,487
受益者負担金による収入		88,557,187
国庫補助金による収入		1,244,540,578
県補助金による収入		6,071,989
投資活動によるキャッシュ・フロー	△	3,171,018,592
3 財務活動によるキャッシュ・フロー		
建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入		3,319,500,000
建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出	△	3,390,967,916
リース債務の返済による支出	△	239,569
財務活動によるキャッシュ・フロー	△	71,707,485
資金増加額(又は減少額)	△	5,704,370
資金期首残高		4,613,607,617
資金期末残高		4,607,903,247

下水道事業本来の営業活動で資金を稼げているかを表しているよ。



施設の更新等、設備投資にどれだけ資金を使ったかを表しているよ。



借入と返済のどちらを多くしたかを表しているよ。



よくわかる決算書 用語解説

あ

雨水(うすい)…… 雨水(あまみず)のこと。

汚水(おすい)…… 家庭や工場などから排水される、汚れた水のこと。

か

勘定……… 取引が行われるつど、資産・負債・資本・収益・費用の5つの要素を用いて記録する。それらの要素を勘定という。
また、例えば資産勘定の中でも、現金や普通預金、建物など中身は細かく分けられる。これらは勘定科目という。

キャッシュ・フロー計算書… 現金の増減に関する情報を表示する報告書のこと。(P17 参照)

公営企業会計…… 官公庁特有の方式である「一般会計」に対して、民間企業と似た方式をとる会計制度のこと。下記の2つの大きな特徴がある。

- ① 発生主義
現金取引の有無に関わらず、経済活動の発生を記帳のタイミングと考える。
- ② 複式簿記
一般企業(株式会社など)と同様の記帳方法。

正確な経済状態の把握が可能になるメリットがある。

さ

資本的収支……… 収益には関係ない、資本や負債に関わるお金の流れ。例えば、資産となりうる建物・施設の建設や、企業債の元金償還などが資本的収支に含まれる。
資本的収支は、公営企業会計では4条と呼ばれている。

収益的収支……… 経営活動に伴って発生する全ての収益と費用を表す。
下水道事業でいうと、下水道使用料や維持管理費などがこれに含まれる。
収益的収支は、公営企業会計では3条と呼ばれている。

- 受益者負担金**…… 新しく下水道を整備した際、その地区に土地を持っている人に建設費の一部を負担していただくもの。
- 損益計算書**…… ある一定期間における企業の経営成績を表示する報告書のこと。(P15 参照)

た

- 貸借対照表**…… 年度末時点における企業の財政状況を表示する報告書のこと。(P16 参照)

- 長期前受金戻入**… 財源を年数ごとに少しずつ収益にしていく仕組みのこと。
施設等を建設するときには、国や県から補助金を貰ったり、一部を市民の方に負担していただいたりしている。これらは施設を建設する年にまとめて貰うが、損益計算書には“1年間にかけた費用と収益を載せる”という決まりがあるため、減価償却と同様に、その施設が使える年数に合わせてそれぞれの年に収益を分ける必要がある。

は

- 引当金**…… 将来発生する費用や損失に備えるために、あらかじめ準備しておくもの。
貸倒引当金や賞与引当金など、様々な勘定科目がある。
- 負債**…… 企業債や未払金等の借金のような、返す義務のあるもの。
返さなければならない期限が1年未満か1年以上かによって、流動負債と固定負債に分けられる。
- 補てん財源**…… 今までに生じた利益や、費用化されるが当年度現金を支払う必要のない減価償却費などが「補てん財源」として管理される。

資本的収入よりも資本的支出の方が大きい場合は、この「補てん財源」で補てんしなければならない。
その理由は、資金的な裏付けがあることを確認し、企業がその事業規模を逸脱して拡大・拡張していないかを確認するためである。

ら

- 流動資産**…………… 1年以内など、比較的短い期間で現金にすることができる資産のこと。現金や普通預金、未収金、短期貸付金などがある。
- 流動負債**…………… 企業の本業に関わって生じた支払債務や、1年以内に支払わなければならない債務のこと。



岡崎市下水道マンホールふた新デザイン
「テケテケさん岡崎を歩く」